



復元された御隅櫓



明治初期の久保田城。左手奥に建っているのが御隅櫓



表門の完成予想図



胡月池(こげつ池)周辺も見どころいっぱい



設計者・長岡安平

市民憩いの公園へ 設計者は長岡安平

久保田城は明治四年の廃藩置県後、一時国有地となります。そして、明治十三年七月、原因不明の火災で城はほぼ全焼。寛永十年(一六三三)、安永七年(一七七八)に続く三度目の大火でした。城の無惨な末路に旧藩士たちも動揺を隠せなかったといわれます。

火災後、明治二十三年に久保田城跡は佐竹家に払い下げられました。そして、荒れ果てていた城跡を市が借り受けて公園化したのが、公園としての始まりです。市民の寄付などにより桜の苗木千七百本が植えられ、桜の名所としてにぎわい始めたのもこの頃でした。

その後、秋田県は、明治二十九年から三年計画で県立公園としての本格的な整備に乗り出しました。設計者は、東京府土木職員の長岡安平。設計した公園は全国に四十数か所あるという当時の実力者です。『技巧を避け、自然の風韻を写出す』という長岡の信念そのままに、現在の千秋公園の原形がこの時でできあがりしました。

千秋公園の命名者は大館市出身の漢学者・狩野良知です。千秋の名の由来は、秋田の「秋」に長久を意味する「千」をとって名付けられ、秋田の未永い繁栄を祈ったものといわれています。

動物園やスケート場 にぎわった時代も

千秋公園は、時代の移り変わりとともに様々な顔を見せてきました。

明治三十七年には現在の県民会館の場所にルネッサンス調の県公会堂が建てられ、秋田の核として息づきました。また、昭和初期には木造のプールができ、二十五年には大森山動物園の前身の市立動物園が開園し、にぎわいを見せました。お堀が冬期間、スケート場に変身したこともありました。そして、昭和二十八年に県から秋田市に移管されました。

園内には、現在でも藩政期の面影を残す場所がいくつもあります。本丸の石段や門の跡、御物頭御番所もその一つです。

また、佐竹氏代々の遺品や久保田城跡の資料を展示する佐竹史料館、平成元年に秋田市制百周年を記念して建てられた御隅櫓からも、当時の暮らしぶりをうかがい知ることができます。そして今、本丸の入口には、藩政期にあった「表門」を復元中で、今年度中に完成する予定です。

佐竹義宣が築城の地として選び、約四百年の歴史を刻んだ千秋公園。市民で守り、育てていく、二十一世紀へ伝えたい原風景がここにあります。